

発行—2017年9月1日

<http://gdtk.lib.gunma-u.ac.jp>

編集—群馬県大学図書館協議会「会報」編集委員会 前橋市荒牧町4-2(群馬大学総合情報メディアセンター内) TEL.027-220-7180



CONTENTS

■ 研究会報告 平成28年度第2回大学図書館研究会	2
■ トピックス	6
■ 編集後記	6

研究会報告

大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修 (群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会 共催)

○平成28年度第2回

テーマ：「PODについて考える」

日時：平成29年3月9日（木）14時00分～16時00分

場所：群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館 ラーニングコモンズ「アゴラ」

参加者：50名（大学図書館32名、公立図書館7名、高校図書館1名、一般10名）

講演：「PODを活用した地域活性～オンデマンド出版による1冊からの本作り～」

朝日印刷工業株式会社 富沢 充芳 氏

ワークショップ：「PODを考える：図書館が出来ること」

【概要】

◇講演

出版印刷において、POD技術が消費者に寄り添い、直結した流通チャンネルと共に、一貫したサービスを提供することで、「地域の活性化」に貢献することが可能である。その1つに、入手が困難となった図書をもう一度消費者に提供する「復刻サービス」がある。復刻に際しては、著作権の課題をクリアする必要があり、再流通のハードルともなっているが、この課題に向き合いPOD技術を利用することで、古い地域図書を大いに再活用することが出来る。地域に存在する古いコンテンツのみならず、表現活動が活発化することで生まれる新しいコンテンツにおいても、本づくりのスタンダードが身近なものになって頂けたら幸いである。

◇ワークショップ

私たち図書館職員は本を作る側ではなく、作られた本を提供する側であるが、将来、図書館がPOD出版の窓口になる、あるいは、著作権の専門家として出版の相談に乗る可能性はないのだろうか？絶版になった郷土資料のPODを図書館が働きかけてもよいのでは？図書館の可能性を広げるために、図書館員もPODの知識を得て、これから出来ることを考える。



講演の様子



ワークショップの様子

【参加者の意見等】

一般公開とし、図書館関係者以外の一般市民にも参加を呼びかけて研究会を開催した。学生や一般市民の参加もあり、意見交換の機会としても好評であった。以下のような感想が寄せられ、有意義な研究会となった。

- ・ 地域に密着した形での利用方法に様々な可能性を感じました。
- ・ PODについて初めて知ることができた。一冊から作れるため、いろいろなことに活用できると思った。地域の人しか知らないようなものを若い世代の人に伝えるためにPODにすることができたらいいなと思った。
- ・ PODをとおして、図書館から発信することが何かできないか考えるきっかけになりました。
- ・ PODは図書館の関わりは小さいものではないかと思っていたが、本日の話を聞き、活用できるヒントのようなものがつかめたように思います。

研究会資料(1)

新日印刷工業株式会社

■平成28年度第2回 大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修 資料

『PODを活用した地域活性』

～ オンデマンド地域出版による1冊からの本作り ～

新日印刷工業株式会社 経営企画部 宮次光秀

Ver. A.1
2017/10/19

新日印刷工業株式会社

■デジタル印刷（オンデマンド印刷）

印刷物を伺いずにデジタルデータをそのまま印刷する方法。少部数生産に有効であり「必要な時に、必要な人が、必要な数だけ」印刷することができるため、POD（プリントオンデマンド）と呼ばれている。

① 電子写真印刷（1990年代～）

顕像光のより約100倍のエネルギーに敏感な感光ドラムに転写させ、感光ドラムを回転させ、レーザー光を照射して、高感化した印刷システム。



©富士ゼロックス株式会社
Copyright © Fuji Xerox Co., Ltd. All rights reserved. 2017.07.20

新日印刷工業株式会社

アルミ製の印刷版



新日印刷工業株式会社

オフセット印刷機



新日印刷工業株式会社

②インクジェット印刷



家庭用インクジェットプリンタは、ヘッドを繰り返して塗布させる事で結核を形成するのに対して、産業用インクジェット印刷機は、結核の結核にヘッドを装着しているため、1回のインク中の液滴だけで印刷が完了する。



©富士ゼロックス株式会社
Copyright © Fuji Xerox Co., Ltd. All rights reserved. 2017.07.20

新日印刷工業株式会社

■インクジェット印刷機の凄じところ（まとめ）

- 1.印刷速度の高速化（生産性）
- 2.印刷面積の大形化（生産性）
- 3.きめの細かい高品位写真画質（品質）
- 4.一般印刷紙で滑らかな自然な仕上がり（品質）
- 5.色再現域が広いのでデジタルメタデータをそのまま詳しく印刷（品質）

研究会資料(2)

新田印刷工業株式会社

■何が実現できるか

品揃に拘りを持った人もそうでない人も
小部数の高品位カラー印刷が低価格で実現！

↓

「必要な時」に「必要な人」が「必要な数」だけ求められる

↓

これによる、新たなコミュニケーションの創出

新田印刷工業株式会社

PODを用いた製品例

スポーツ少年団・サークル活動・習い事など、個人でもグループでも活用できる

写真集・作品集 記録・記念を綴る冊子 お手軽フォトブック



新田印刷工業株式会社

POD活用事例①

過疎地域の『卒業アルバムを復活させよう！』プロジェクト

県内の過疎地域の学校では、3割が作製しておらず、2割は手作りだった



新田印刷工業株式会社

POD活用事例②

展示会での作品をフォトブックに！

弊社のギャラリー「ノイエス朝日」で随時開催される県内作家の企画展を、作品設置後に撮影し、フォトブックの現本を作成。ギャラリー入口にフォトブック見本を展示し、来館者に販売。PODで注文ごとに生産するため、在庫を抱える事なく必要な人に提供できる。



新田印刷工業株式会社

地域の出版印刷を活性化させる取り組み その①

■新刊本小部数出版支援

日費出版は本とより、地域の出版活動に携わる団体にデジタル印刷技術を利用してもらう事で、共に地域の出版活動を活性化することができる。特にインクジェット印刷技術を用いる事で、小ロットのカラー書籍印刷が可能となる。



新田印刷工業株式会社

POD活用事例③

「100x100 BY POD」オンデマンド出版プロジェクト



100人が100枚で作る、100冊。

100x100 BY POD

100 PEOPLE x 100 IMAGES BY PRINT ON DEMAND

© 2011 Kaitakuji Design

研究会資料(3)



創研印刷工業株式会社

地域の出版印刷を活性化させる取り組み その②

■複製本製造販売サービス

富士図書をデジタルアーカイブし、PODで複製する。さらに流通システムを構築し読者へ！

- ① 富士に残る希少な本や損傷の甚しい古い本を、非破壊で簡単にデジタル化できる高性能スキャナを用いてアーカイブする。
- ② アーカイブした資料をPOD技術を用いて、1冊から複製本として印刷し製造する。
- ③ WEBを用いて販売流通を確保し、群馬の郷土文化を県内外さらには世界に向けて発信し、地域の活性化に貢献する。



創研印刷工業株式会社

POD活用事例④

みやま文庫複製POD

無償で入手が困難になっている本をPODにより複製し、地域の消費者はもとより郷土出版物に関心を持つ多くのの方に、インターネット販売サイトを介して販売を行う。




創研印刷工業株式会社

ぐんまの本棚



創研印刷工業株式会社

著作権について①

写真や印刷は複製技術そのもの → 著作権を理解する必要がある
(特にデジタル技術は劣化なく、手軽に複製、配布が可能)

- ① 著作権・・・10以上の差分種から成り立つ(複製権、上映権、公衆送信権など) 保護期間50年(亡くなったその日からではなく、没年の1月1日から)
- ② 著作権人物権・・・(公表権、氏名表示権、同一性保持権) 保護期間はない(権利主張が出来るには → 不行使特約)
- ③ ©マーク・・・著作権者の氏名なく複製等を禁ずる警告の意、表示義務はない。
 - © ○○○○年 著作権者名
 - ↓
 - 最初の発行年(著作権発生年)

© - 「Copyright」の意なので、©の後にCopyrightと入れる必要はない。
All rights Reserved = 「権利を保留する」の意なので、©と一緒に表示する必要はない。

創研印刷工業株式会社

著作権について②

デジタルアーカイブや複製において、何が課題なのか

著作権処理が必要
著作権処理の中で主に、複製権(出版権)と上映権、公衆送信権(流布可能化権)に括弧。

- ① 複製したい
- ② 著作権保護期間の確認 → 権利行使権限
- ③ 権利者不特定(複製著作権・著作権者・著作権者・著作権者) 共同著作権、継承著作権
 などの保存方法を考えるか
<http://www.copyright.com/>
 ・文化庁長官による制度変更
 ・著作権管理団体等からの費用負担(著作権登録がされている場合)
 ・オプト・インとオプト・アウト

今後の課題・・・保護期間がより長くなる?

- ① 保護期間延長 (TRIP)
- ② 高経団社会

トピックス

東洋大学板倉図書館

東洋大学板倉図書館・板倉町地域連携事業 ライブラリー・カフェ トークイベント Vol.2

講演者は、南日本酪農協同株式会社の取締役営業部長の現職であり、長年の業務の経験により得た知識や情報に基づき、酪農業や乳製品に関する講演を行った。

講演内容は、①乳製品の需要量と自給率②どうしてバターが不足するのか③酪農の今後に抱える問題点の3点を中心に、消費者の立場から理解できるよう、具体的な事例を紹介しながら説明を行った。

今回も前回(5/15開催)のイベントと同様、地域住民の方に多数参加いただき、質疑応答では予定時間を超過する程盛況となり、約1時間の講演が終了した。

日 時:2017年6月13日(火)15:00~16:00
場 所:板倉図書館1F「アクティブ・ラーニング・エリア」
参加者:40名(含む地域住民の方27名)
講演者:瀬戸口 祐二氏(東洋大学卒)
南日本酪農協同株式会社 取締役営業本部長



トピックス

群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館

ギャラリー展示「前橋と古利根川」 & アゴラカフェ/ひとつばなし11 “群大版プラタモリ”

5月25日~6月19日、中央図書館1Fのギャラリーにて、群大医学部OBで前橋市内のクリニック院長である小野久米夫氏による「前橋と古利根川」の展示を開催しました。小野氏は、在宅医療に携わる傍ら、利根川の流域の変遷の研究をされており、今回、8年にわたる研究成果の発表という形で展示をしていただきました。

展示開始から終了日まで、学外から多くの入場者があり、期間中の6/7に、アゴラカフェ/ひとつばなし11として開催した展示解説と群大荒牧キャンパス周辺の堰跡をめぐる“群大版プラタモリ”には約150名(うち130名が学外者)の参加がありました。今回の展示を機に、初めて群馬大学に足を運んだという方も多く、今後は利用者として来館されることを期待しています。



編集後記

3月の研究会でおこなわれたワークショップでは、学生や市民の参加者など様々な立場の方の意見を聞くことができ、新鮮な刺激を受けました。地域で活躍する人や異なる業界の人の知識と発想に触れることができる場として、図書館も地域活性化に貢献していければと思います。